

E 27 理論食料費試算とその展開(第10報) — 時系列における年間収入五分位階級別食料費変容のパターン —
佐賀大教育 出石康子

目的 第9報の研究において、物価上昇時の食料費の変容が、収入階級の差によって異なるパターンを示すことに気付いたので、比較的長期にわたる食料費の変容を、収入五分位別に分析・検討し、時系列における変容も収入差との関連でパターン化して特色を把握したいと考えた。国民の収入階級別による、時代や経済環境の変化への対応のあり方の実態は、将来のきめ細かい家庭福祉政策の策定に、有効な視点をひらくものと考えられる。

方法 家計調査年報(総理府統計局)を資料とし、昭和42年以降の全世帯と勤労者世帯の、収入五分位階級別/世帯当たり年間の品目別支出金額・購入数量及び平均価格を用いて検討資料を作成した。検討の視点・項目は、実態食料費額やエンゲル係数等の変容のみでなく、外食費率・実態食料費の比率・理論食料費額のほか、第6報に報告した方法による実態食料費差の要因別構造・成分別栄養購入状態等も取り上げた。なお全世帯と勤労者世帯の別も配慮した。

結果 ①時系列における収入階級別にみた食料費変容のパターンは、全世帯と勤労者世帯の間には、各項目とも、比較的類似の傾向が認められた。②外食率・実態食料費の比率の変容のパターンは、ともに階級別に顕著な変容のパターンを示した項目であるにもかかわらず、両項目に共通の形が認められ、またエンゲル係数と進動向の変容パターンを示したことなど、両項目の意味するものの性格に対応させてみて興味深い。③時系列における収入五分位階級間の理論食料費・実態食料費・実態基礎食料費の格差は、ここ十数年間の間に、その中にわずかな縮少の傾向が認められた。